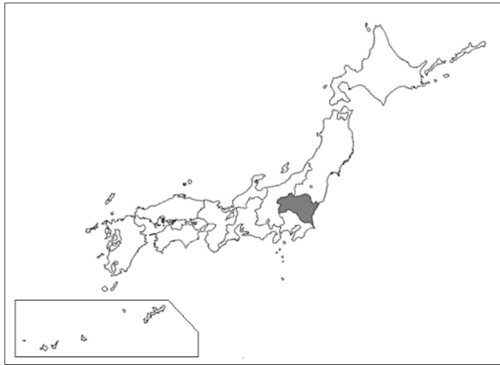


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

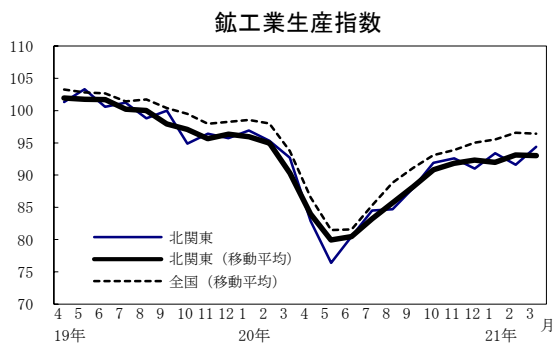
前回からの主要変更点

	前回 (令和3年3月)	今回 (令和3年6月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	↓
個人消費	このところ弱含んでいる	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

1-3月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」が増加したこと、「石油・石炭、化学、プラ製品」が増加したこと等により、前期比1.4%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラ製品	20.1	2.6	1.7	2.9	▲4.8	8.9
輸送機械	18.3	9.6	▲3.4	▲2.7	▲5.5	12.1
汎・生産・業務用機械	17.1	14.0	5.2	6.6	4.7	▲5.5
食料品・たばこ	12.1	0.1	—	▲1.2	▲3.3	—
電子デバイス、電気・情報通信	11.2	11.8	0.7	3.6	▲2.2	▲2.1
鉱工業	100.0	7.1	1.4	2.6	▲1.9	3.1

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。
2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
3. 北関東は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1-3月期、3月は速報値。速報値において、化学又は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

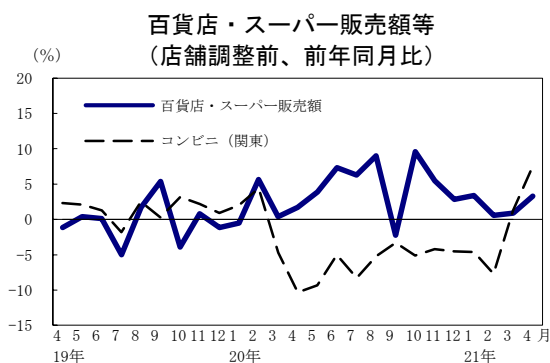
個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1-3月期は前期比 0.4%減となった。月別にみると、1月は前月比 1.8%減、2月は同 3.3%増、3月は同 1.1%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

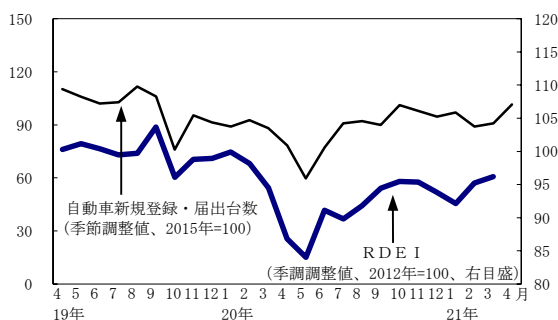
百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比 5.6%増、1-3月期は同 1.6%増となり、増加幅が縮小した。月別にみると、1月は前年同月比 3.4%増、2月は同 0.6%増、3月は同 0.9%増となった。



	2021年1-3月	2021年1月	2月	3月	4月
RDEI (消費*1)	▲0.4	▲1.8	3.3	1.1	—
百貨店・スーパー(*2)	1.6	3.4	0.6	0.9	3.3
コンビニ(*3)	▲3.6	▲4.6	▲7.7	1.3	7.5
乗用車(*4)	2.4	5.5	▲2.8	4.4	29.4
(季節調整値) (*4)	▲5.8	2.3	▲8.1	1.9	11.8

- (備考) 1. 季節調整前前期 (月) 比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同期 (月) 比 (%)
 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
 2021年4月は速報値。
 3. 店舗調整前、前年同期 (月) 比 (%)
 コンビニは、経済産業省の関東 (茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡) の値。
 2021年4月は速報値。
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期 (月) 比 (%))

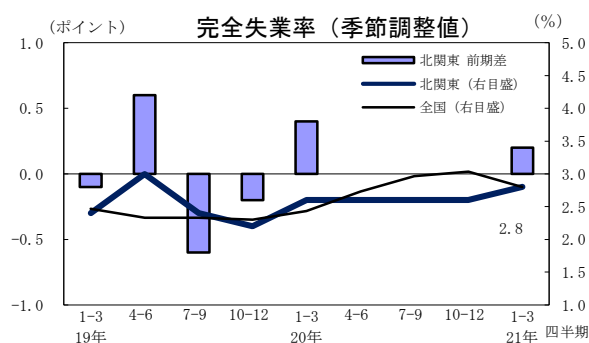
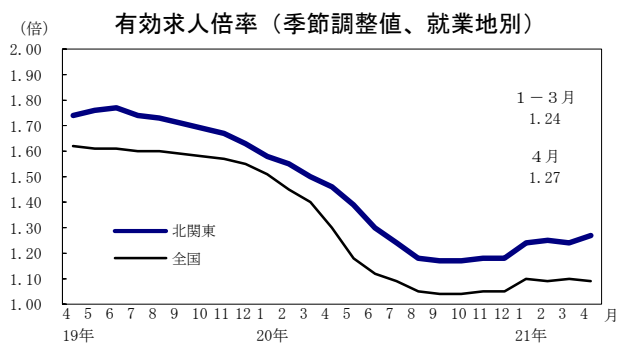
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年4月調査) 景気判断理由の概要

3. 北関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・比較対象の1月の売上と単純に比べると、今月の方がやや良くなっている。しかし、新型コロナウイルス禍以前の売上と比較すれば、今年1月と4月の達成度はそれぞれ 29% にしかならず、大変厳しい状況が続いている (一般小売店 [土産])。
		×	・県独自の営業時短要請が出され、影響が過大である (一般レストラン [居酒屋])。
		・新型コロナウイルスの影響で、飲食店関係がすっかり停滞している。また、店舗も廃業、撤退が進んできている。ただし、物販店は逆に元気があるようで、ちらほら引き合いが増えてきている (住宅販売会社)。	
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルス禍においても特段変化は見られない。IT化で業務改善しようとしている客も底堅い (その他サービス業 [情報サービス])。
		×	・4月の売上は思ったより改善しているものの、一昨年との7.5割くらいである (金属製品製造業)。 ・半導体不足による自動車の減産が続いている。来月以降も回復の見通しが、はっきりしていない (輸送用機械器具製造業)。
雇用 関連		・求人数は、飲食、小売業以外の業種で前年より増加しており、回復傾向にある (職業安定所)。 ・新型コロナウイルスの変異株の拡大により、首都圏を中心に再度、緊急事態宣言の発出となり、飲食業及び観光業を中心に厳しい状況となっている。しかし、動物 (ペット) 情報関連産業は、上向きになっている (学校 [専門学校])。	
	×	・今までは普通に仕事があったが、これから先は仕事がなくなり、派遣先から従業員を引き取るような話も出ている (人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			：現状の巣籠り需要により、通販向けのキャンプ用品、パーベキュー、家庭園芸用品等の物量が、前年の10%ほど増えている。また、白物家電、エアコン等の状況も良く、全体的に前年比15%増の輸送量を確保している (輸送業)。 ×：新型コロナウイルス感染再拡大の影響で、多くの都道府県で感染者が増えてきている。また、首都圏を中心に、緊急事態宣言が再発出された影響も大きい (観光型ホテル)。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・当県は対象外であるが、4都府県に緊急事態宣言が再発出されたことにより、自粛ムードが強まるのが予想される。景況回復には時間を要するものと思われる (百貨店)。
			・新型コロナウイルスの変異株の感染拡大が当県でも増大傾向にあり、人々の動きが止められつつある。今後、車の運行も減るだろう (その他サービス [自動車整備業])。
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルスの影響がないとは言えず、先が見えない不透明な状況は続くが、何とか現状を維持したい (化学工業)。
			・年度初めからの動きがすこぶる悪く、改善するとも思えない (建設業)。
雇用 関連		・先日、動物 (ペット) 関連のイベントがあったが、大変なにぎわいであった。新型コロナウイルス疲れの反動もあり、上向きを感じる (学校 [専門学校])。	
		・新型コロナウイルスが雇用に与える影響を、より一層注視していく必要がある (職業安定所)。 ・3か月先は、良い話が入っていないので悪くなる (人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			：新型コロナウイルス禍の影響で、1年以上止まっていた航空関連や鉄道関連の仕事が再開する予定である。また、自動車、建設機械、ロボット等の仕事も減産情報は無い (一般機械器具製造業)。 ：全体的に人の動きが良くないので、この先も良くないとみている (タクシー)。

(D I) 現状・先行き判断D I (北関東) の推移 (季節調整値)

